

○脚矯正装具 を X脚矯正装具 として使用する場合の検討

1. ○脚矯正装具の構成

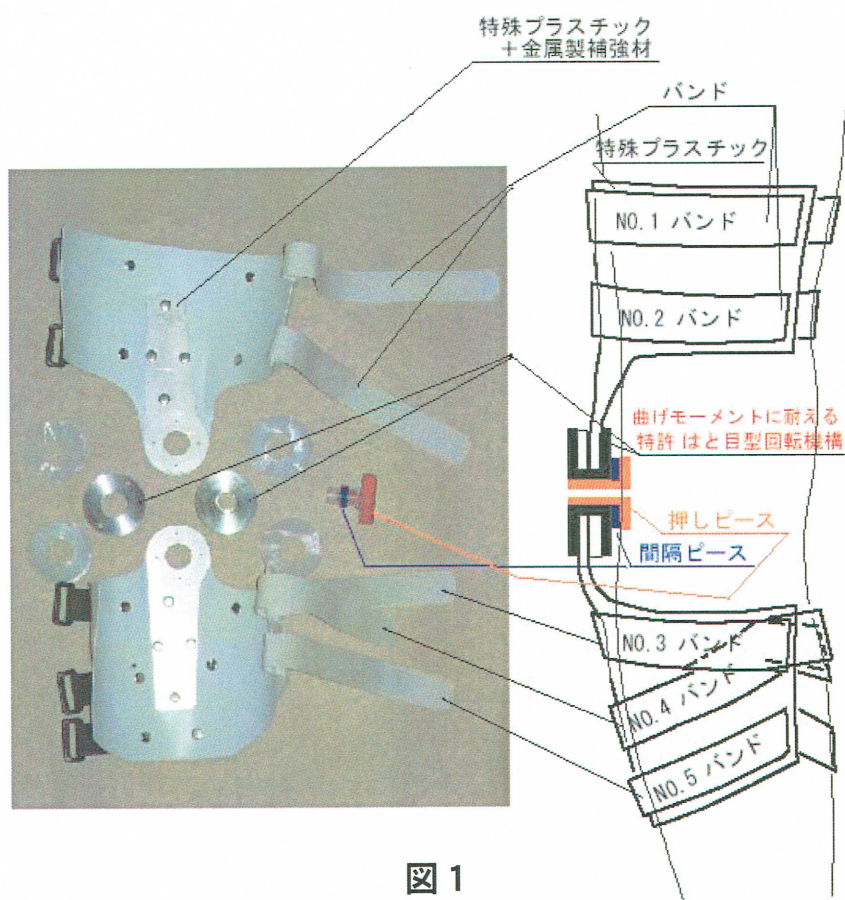


図 1

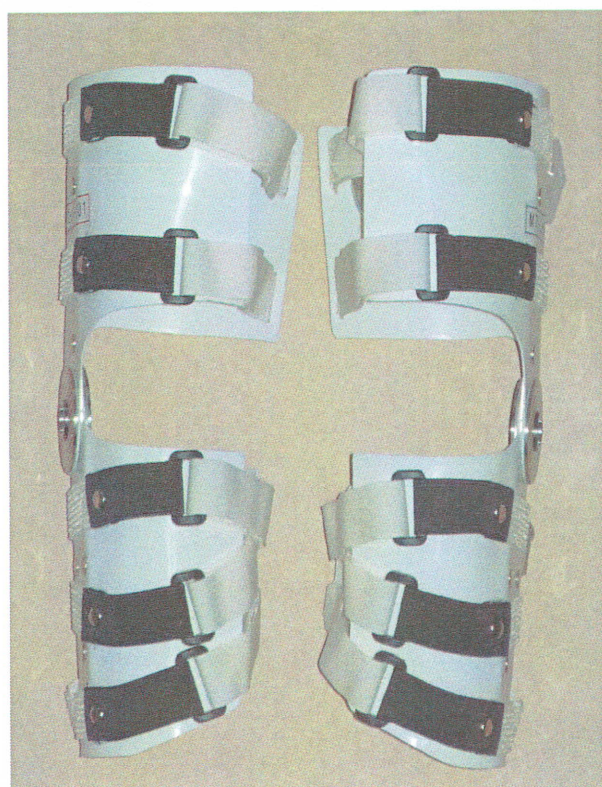
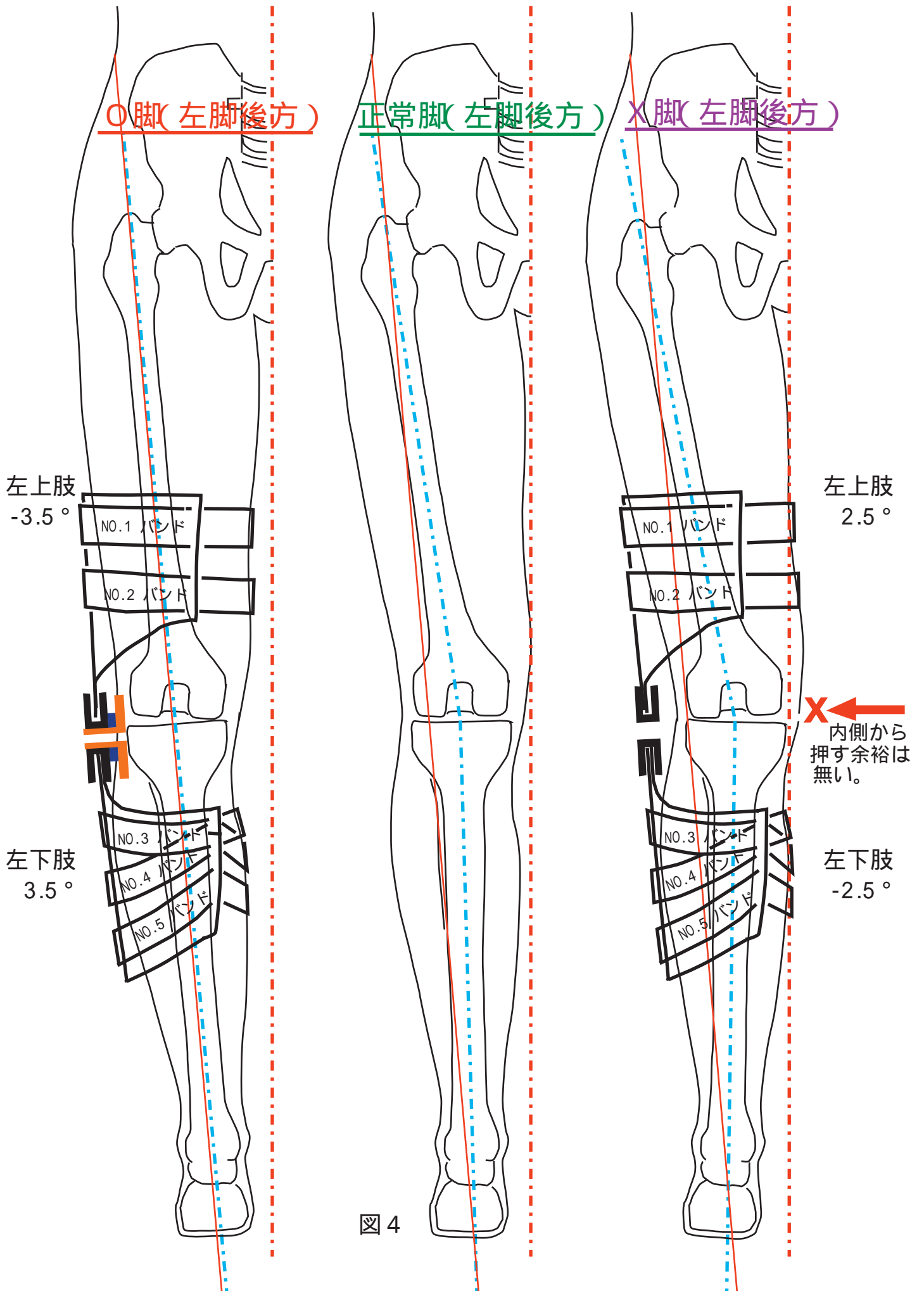


図 2 (正面)



図 3 (背面)

2. O脚用矯正装具を、O脚（左図）およびX脚（右図）に装着した状態図



3. X脚の特徴

図4は、左から、O脚、正常脚およびX脚を後方から見たものです。

正常脚では、膝部分で左右の脚がぴったりくっつくように、脚の上肢と下肢は一直線上にはなく、上肢と下肢は少々内側に屈っしています（膝外側角 (Femoral Tibial Angle) が 172° ~ 176° ）。

図4左は、O脚の場合を示し、正常脚（図4中央）から、上肢で -3.5° ・下肢で 3.5° 曲がった状態を示し、図3左は、X脚の場合で、上肢で 2.5° ・下肢で -2.5° 曲がった状態を示しています。

正常脚（図4中央）の膝部分を見ると、脚外面側は凹んでいるのに対し、脚内面側の上部には凸起があります。

O脚矯正装具の場合は、脚外面側の凹みを使って「押しピース」を設けても、それほど外観には反映されませんし、また、脚の運びには支障がありません。

しかし、X脚の場合は、脚内面側の上部には凸起があるため、脚の運びそのものが、ファッションモデルの様な歩行をせざるを得ない状況となります。

したがって、X脚矯正装具の場合は、脚内面側の上部の凸起のため、膝内側には余分な物を付けない方が良いことが判ります。

この結果、X脚の場合も、O脚矯正装具を使う方が良い場合があり、この場合は、O脚矯正装具の「押しピース」を付けずに、N0.2 バンド 及び NO.3 (N0.4) バンド で脚を締めて、装具の補強材（フレーム）を使って膝を外側に引っ張るようにした方が有効であることが判ります。